

北 どりくろあ

第62号 2021年5月1日（毎月1日発行）

ふるさとの開拓者⑤

海外移民——広島は日本一の移民県

広島県の海外移民の数は、戦前戦後を通じて109893人（JICA横浜海外移住資料館による）、全国一位の移民県である。二位が沖縄県の89424人、三位が熊本県の76802人。

移民の数が多し理由がいくつか考察される。江戸時代に広島藩は開拓事業などを積極的に、また瀬戸内の海運業で商品経済が発達、江戸末期まで人口増が続いていた。それが、明治時代に入って幕藩体制が瓦解、多くの失業者が生れた。綿花、い草、藍などの特産品が外国産の輸入で需要が減少したのも大きかったようだ。

仕方なく海外に新天地を求めたわけだが、初期の広島・山口出身の移民がその県民性から「真面目によく働く」と評判になり、海外の雇い主が両県の出身者を指定してくることもあったという。当初の移民は出稼ぎが主目的で、親族に多額のお金を送りしたり、裕福になって故郷に錦を飾った話が評判になって、年々渡航者が増加。

広島県の本格的な移民は、1885（明治18）年のハワイ移民に始まる。政府の斡旋による官約移民で、広島県が全国の3分の1を占めたという。中国新聞社の『移民』（1992年）によると、ハワイ

教寺院「慈恩寺」（曹洞宗）の住職、清広亮光さん（出版当時84歳）は、庄原市東城町出身だ。

「慈恩寺は一九〇七年（明治四十年）の建立。初期の移民は、耕地で激しい労働を強いられ、加えて風土病の猛威にさらされて次々と死んでいった。あまりの悲惨さに、移民の一人だった僧侶が寄付を募り、お寺を建立したのが始まり。」（『移民』より）

ツアーコンダクターの仕事をしていた東城町在住の山崎允（まこと）さんの話を取材。1984年、山崎さんが旅行客の添乗員でペルーを二度目に訪れたときのことだ。ペルーに広島県人会があることを知り、現地ガイドに橋渡しを頼んだ。

広島県人会の会長が、山崎さんのホテルに会いに来てくれたという。山崎さんが故郷の銘菓・竹屋饅頭と地酒を土産として手渡すと、会長は10日後の県人会の総会で披露しますと頭を下げた。饅頭は日持ちがしませんからと言いつつ、「姿だけでもみんなに見てもらいます」、望郷の念の強さがうかがわれる。

「三十人ぐらいで広大な畑に入って共同生活。劣悪な労働環境から、病気や風土病で亡くなる人が出て七人ほどに達するまで埋葬も許されず、死体と一緒に屋根のない部屋（ペルーは雨が全く降らない）から見える星を眺めて、日本のことを思い浮かべていた」

見張りの目を逃れて標高七千メートルのアンデス山脈越えをして隣国パラグアイに逃げ、そこで「広島村」を創り上げたという話も伝わっている。自分たちは「移民」ではなく「棄民」、当時の人たちの独白である。

山崎さんが後にアンデスの標高3810mにあるチチカカ湖を訪れたとき、浮島（葦を重ねて水上に浮かした島）で暮す原住民の人が「証城寺の狸囃子」を口ずさむのを聞いて驚いた。一緒に暮らしていた日本人が教えたのではないか。ひよっとして、農園から逃げ出した移民……。

ペルーの日本移民は数々の困難な状況を乗り越えて確固たる地位を築き、アルベルト・フジモリ大統領（熊本県がルーツ）を誕生させている。



海外興行会社による広告（ウィキペディアより転載）

沢木耕太郎『テロルの決算』

政治の季節の無残な終焉

戦後日本の「政治の季節」は無残な終焉を遂げました。60年代末から

の学生紛争は、分派化して過激になり、72年の浅間山荘事件で尖鋭な暴力と化しました。これを機に、若者

たちは政治アパジー（無関心）の時代を迎えたのです。これに先駆けるように、60年10月、社会党党首の浅沼稻次郎が演説中に、17歳の華奢な少年に刺殺されるテロ事件があったのです。

少年の名は山口二矢（おとや）。少年法で実名は非公開なのですが、事態の重大さから公表されました。山口少年を主軸に、刺殺された浅沼稻次郎との2人の軌跡を描いたノンフィクション作品、沢木耕太郎『テロルの決算』（文藝春秋刊）が、世に出たのは政治の季節が沈静化した78年、大きな注目を浴びました。沢木は、この作品で「ニュージャーナリズムの騎手」とまで言われるようになりました。

この作品の主眼は、年端のいかない少年が、なぜここまで一途に思い詰めるようになったのか、その育つ

た軌跡を見極めることでした。

少年の名は、山口二矢（おとや）。東京のサラリーマン家庭に生まれ、

演説会でヤジを飛ばす聴衆にくっつき、何度か検挙されています。その赤尾敏が生ぬるいと離脱し、テロ事件を起こしたのでした。

警察は、背後関係として赤尾敏らを追及しますが、二矢は頑として否定します。当時、父親が自衛隊の「一

で行き詰まったのだらうと、私は推測します。そこで、作者は刺殺された浅沼稻次郎の歩みを克明に追います。だが、二矢との接点はどこにもありません。浅沼党首は複数の候補者の1人として、標的にされたのです。

ここで、沢木耕太郎は、2つの軌跡が交差する一瞬に焦点を絞りました。二矢は短刀を握り演壇に駆け上がり、浅沼党首の胴体を一突き、二突きし、三突き目を護衛者の素手で刀身を押さえられ、手を緩めたと思われまます。

収監された二矢は「言葉づかい、礼儀作法、人に接する態度、そのどれもが年長者に好まれる折り目正しいものだった」のです。ほどなく鑑別所の収容室で「七生報国」と残し自死します。

「彼には『強いもの、流行するもの』に対する反発心が強かった。彼にとっては左翼こそが強者であり、流行に便乗するもの、と映っていく」と沢木耕太郎。私は立ち居振る舞いに、吉田松陰を連想しました。この本が、政治の季節から外れて出版されたことに、安堵しました。

次回は、島田雅彦『優しいサヨクのための喜遊曲』を取り上げます。

また読んでみたい本⑥

青年たちに

音谷 健郎



【文春文庫版の表紙】

古今東西の文学にはたくさんの名作があります。そんな名作の中から筆者の心に残る作品を今の青年たちにも読んでもらいたいと思い、毎月1冊ずつ紹介しています。

第60回は、沢木耕太郎の『テロルの決算』です。もし興味を持ったらぜひ読んでみてください。

筆者紹介：1944年、旧・庄原町生まれ。新聞記者、大学講師を経て現在、庄原市東本町在住。大阪文学学校講師

1歳年上の兄と2人兄弟。少年二矢は、テレビドラマの子役俳優をしてりしています。中学生になった頃から兄の影響もあり、天皇を賛美して教師にくっつくようになる。高校3年で家出、大日本愛国党総裁赤尾敏の元に寄宿します。赤尾敏の

等陸佐（戦前の軍隊では大佐に相当する呼称）と高官だったので父親も追及。が、父親は、元々は演劇を目指し、職を転々として自衛隊に入っており、二矢の「家出」を認めただけのむしろ自由人気質だったので。作者沢木耕太郎も成り行きが意外



どら書房の店主が毎月オススメ本を3冊選んでご紹介します。

「思考の整理学」

外山慈比古 著 筑摩書房

「学校はグライダー人間の養成所である」、「グライダーと飛行機は遠くから見ると、似ている。(中略)ただ、悲しいかな、自力で飛ぶことができない」。現代教育の、いや、現代社会の問題点をズバリと指摘。大学教授の視点からの教育論には説得力がある。

馬上、枕上、廁上、すぐれた考えが浮かぶ「三上」。馬上は現代では通勤時間か。同じ土地で同じ作物を作り続けると生産が減少してくる「収穫逡減の法則」、人間も同じで、ときには発想の転換、思考の発酵時間も必要。「努力をすればどんなことでも成就するように考えるのは思い上がり」、目から鱗で、そばに置いておきたい本である。



「文士あの日あの時」

大庭登 著 第三文明社

「新聞小説の旗手たち」というサブタイトル。著者は、新聞の連載小説を企画立案する会社の編集者。大手新聞社であれば、有名作家も書きたがるが、地方の新聞社だとそうはいかない。いくつかの地方新聞社が共同で、連載小説を載せることになる。その橋渡しが仕事。

作家はプライドの塊で、ライバル心から連載をわざと長引かせて、次回の作家の足を引っ張ることなど常套手段。原稿をもらいに日参する編集者が体験した「奇人変人」の文士たちの素顔が描かれている。池波正太郎、今東光、永井龍男、司馬遼太郎、柴田錬三郎等々多士済々の24人。自分の好きな作家だと嬉しさも倍増!



「騙し絵の牙」

塩田武士 著 角川書店

大手出版社の月刊誌「トリニティ」が舞台。出版不況で老舗の雑誌がどんどん廃刊になる中で、編集長の速水輝也の苦悩が描かれている。「トリニティ」存続の条件は黒字化、実売数は先細りで絶望的、大物作家の連載を獲得して単行本化、あるいは広告収入を上げるしか手立てはない。家庭を犠牲にしてまで奮闘する速水は、次第に社内の権力闘争に巻き込まれて行く……。



不可思議なタイトルと、冒頭の他視点が鮮やかに収束。インターネットや電子ブックの台頭で、紙媒体の雑誌や小説が売れなくなっている出版界の窮状が実感できる。近い将来の直木賞作家の器だと予測。

どら書房 << 貸本屋システム >>

- ・ 店内で販売した本は、どら紙幣(店内専用通貨)であれば半額、現金であれば3割で買い戻します。※破損や汚れがあれば値引
- ・ 書籍購入⇒読了⇒どら紙幣と交換⇒新たな書籍購入、貸本のような感覚でご利用ください。

比婆山連峰の自然(5)

著者紹介…一九三一年、比婆郡(現・庄原市)比和町に生まれる。農学博士(九州大学)。昆虫や動植物などの自然科学、郷土史や民俗学を含めた博物学の研究者で、著書は多岐にわたる。

※中村さんの回想録的なコンセプトで編纂された「虫と草木と人びとと」(シンセイアート出版)から、著者の許可を得て、その一部を抜粋、転載しています。

吾妻山の原池の右端から林道(市道吾妻山線)へ向って2列の円弧状に点々と延びる低木叢は、上八川一帯の鉄穴流しのため、原池から設けられた鉄穴井手の遺構で、稜線からこの遺構までシバ草原であった。現在は低木林が鉄穴井手遺構を越えて拡がり、遺構上を辿ることはできないばかりか、小坊主から約50m進んだところは小坊主同様、年3〜4回

の草刈りで、ススキ草原化が阻まれているものの、その先はススキ草原に遷移し、ウリハカエデ、ミズナラ、ヌルデなどの幼木が目立つようになっっているから、やがて落葉広葉樹二次林となることであろう。中越・他(1989)は、小弥山から吾妻山山頂、吾妻山山頂から北西へ延びる稜線、山頂から南ノ原への稜線をススキ・ホクチアザミ群集として

小弥山から吾妻山山頂への登山道を歩くと、小弥山の頂部は広く開け、イブキトラノオが茂り、寺床への斜面は二次林となり、頂部のごく一部にササユリ、ユウスゲ、カワラナデシコ、イヨフウロが見られる。そして、頂部から吾妻山山頂へ向うに従い、低木林が迫り、ススキ・ホクチアザミ群集は消えている。また、吾妻山山頂から北西へ延びる稜線部はカンサイスノキ、ウラジロハナヒリノキ、

ホツツジ、ヤマツツジなどの低木で覆われ、ススキ・ホクチアザミ群集は見られない。

山頂から南ノ原までの稜線も同様、ホクキ・ホクチアザミ群集は見られず、山頂から標高1200mの地点まで、ネザサ・ヒロウザサが登山道両側を埋め、やがて、ススキ草原となり、そのススキ草原は標高1150mまで、山頂から距離にして約600mの区間を覆っている。このススキ草原は登山道を挟んで左右両側がそれぞれ約3m幅が毎年、刈り取られている。その幅は標高1150mあたり付近につれ、狭くなっているから、ススキ草原はなくなり、二次林が両側から迫っている。

標高1150mから標高1120mの区間は急坂で日当たりがよいためか、登山道は裸地状で、林縁はホツツジなどの低木が多く、リュウノウギク、キユウシユウコゴメグサ、ツ

シマママコナ、ホソバノヤマハハコが多く見られる。急坂を下り、標高1120mから標高1080mまでは緩やかな斜面で、このあたり一帯が南ノ原である。この南ノ原もシバ草原が拡がっており、斑状群落が見られた(写真1)。1980年代に入っ

て放牧される和牛の頭数が減少するにつれ、南ノ原へ移動してくる和牛はなくなり、南ノ原のシバ草原は急



写真1 南ノ原のシバ草原と斑状群落 (1974年8月5日撮影)



写真2「吾妻山」(高卯安人撮影・入選作品) (1991年中国山地豊かな自然写真コンテスト)

速にススキ草原へ遷移し、現在は落葉広葉樹二次林となっている。

吾妻山への放牧は、いつ始まったかは定かでないが、少なくとも1810年ごろには放牧されていたと考えられ、最盛期には1950年〜1960年、稲作の機械化が始まった1960年代後半から、和牛が役用牛から肉用牛へと転換した結果、急速に放牧される和牛が減少し、1980年代は最盛期の10分の1以下に減少、写真2に見られるように1990年代は更に減少し、小坊主の斑状群落は消えたものの、シバ草原は残っていた。しかし、1995年、放牧が中止されてから急速に植生が変化したことは写真2からも読みとれる。

中越・他(1989)は吾妻山東



写真3 1974年当時の吾妻山東斜面の景観
(吾妻山植物誌)

斜面から大膳原の一带をススキ・ホクチアザミ群落としているが、ここでもススキ・ホクチアザミ群落は確認することはできなかった。

写真3で山頂に近い標高1200mあたりから下方へ延びている線は放牧された和牛が島根県側へ越境しないよう、県境に添って幅約1m、深さ約70cmの溝を掘り、牧柵が設けられていたところで、これは大膳原まで続いていた。そして東斜面の標高1180mから標高1200m間(写真3で淡緑色となっているところ)に堀川・佐々木(1950)がいう段階状群落が形成されていた。これは放牧された和牛がほぼ等高線沿いに急坂をジグザグに移動するため、ササが混じる低木叢が踏みつけられ、ササは食べられて踏み跡が和牛の群れの移動路となる。この移動路で採食圧がススキなどの再生力を上回ると、替ってトダシバが増加する。さらに採食圧が加わると、トダシバも消え、シバが優占するようになり、移動路となった踏みつけ道の両側の低木も採食圧で刈り込まれたようになり、大膳原から遠望すると、横縞状に低木叢が景観を呈する階段状群落ができたという(堀川・佐々木、1950)。

「つれづれ歌談」⑪

松岡初枝

・春過ぎて夏来(きた)るらし白たへの衣干したり天の香具山

持統天皇

万葉集の有名歌です。

持統天皇は天智の娘、叔父天武の妻です。この歌が詠まれる前に、実はドロドロの政争がありました。天武には少なくとも十人の妃(みめ)がいましたが、鷗野皇女(うののひめみこ、後の持統)の子の草壁皇子、大田皇女の子の大津皇子は、石川郎女(いらつめ)をめぐる恋敵であり、ライバルでした。特に二十四歳の大津は人望も教養



もあり、鷗野にとつて草壁が帝位につくには目障りな存在。天武の死後すぐに大津に謀反の罪を着せて処刑してしまいます。

・ももづたふ馨余(いわれ)の池に鳴く鴨を今日のみ見てや雲隠りなむ

大津皇子

・うつそみの人にあるわれや明日よりは二上山を弟背(いろせ)とわが見む 大伯(おおく)皇女
大津と大伯は同母の姉弟、大伯は伊勢の斎宮の任にあり、伊勢の地で弟の刑死を知った姉は、大津の葬られた二上山をこれからは弟と思つて生きよう、と詠みました。前の大津の歌も、この世で見る最後の景色、池のほとりで泣きながら詠んだとされる切ない辞世の歌です。

しかし皮肉にもこの後草壁が急病で死にます。鷗野は「こうなったら私が天皇になるしかない」こうして持統女帝が誕生したのです。この大津の処刑から後、草壁を含み持統の近辺に暗雲が漂いはじめることになります。

歴史は、時に若い人の血を吸い、時には化粧もするのです。

「わしだ」

「はいはい、わかっていますよ」

いつものように、美和の素っ気ない声が返ってきた。携帯電話というやつは、出る前に相手がわかってしまうので味気ない。

「おまえ、猫を飼ってたよな」

「アメリカンショートヘアのケンシローね」

確か、三年ほど前に死んでいる。

「猫がぐったりしてるんだけどな」

「お父さん、猫を飼ってるの？ わしは戌年生まれだ、て言っつて、絶対に飼ってくれなかったのに」

子供の頃のことを、今でも根に持っている。

「野良だ。ときどき煮干しをやってたんだが、台所の土間で蹲っている。煮干しも食べない。猫マンマを奮発して作ってやったんだが、見向きもしない」

「猫マンマって、ご飯に鰹節をかけたやつ？」

「そう、たつぷり醤油をかけてやったんだがな」

「余計に具合が悪くなっちゃうわよ。ペットには、塩分の多いものは禁忌なの。腎臓がやられちゃうからね。病院に連れて行ったら？」

「人間だけじゃなくて、猫も診てく

れるのか？」

血圧の薬を処方してもらっている

医院の老先生の顔を思い浮かべた。

「いやあねえ、動物病院よ」

「だって、赤の他人……、いや、わたしにはなんの関係ない野良猫だぞ」

「放っておいて死んじゃったらどうするの？」

「畑に埋めてやるさ。良い肥やしになる」

「トラ公、おまえ病気なのか？」

キジトラ模様の猫なので、そう呼

んでいた。土間の片隅に蹲っている

猫が、大儀そうに顔を上げて、力のない声で啼いた。

「えーと、名前がゴンタちゃん……」

問診票を見ながら、女医さんが言った。マスクをしているが、なかなか

の美人だ。年齢は四十代の半ばぐら

ずいぶんほっそりしていて、印象が

違っているのとまどった。

あわてて、飼っている猫じゃないことを説明した。

「やさしいんですね」

女医さんの目が柔和になった。

「診察券に名前を書きますから、女の子らしい名前を付けてあげてください」

考えたが、何も思い浮かばない。

「ケイコ……」

思わず口にして、ダメだダメだとかぶりを振った。死んだ女房の名前を猫に付けてどうする。

「アヤ……」

中学校のときの初恋の同級生だ。

「文」と書いて「アヤ」と読む。

「いい名前ですね」

決定だった。

「さあ、アヤちゃん、どこか悪いか、調べてみましょうね」

買い物カゴから引つ張り出されて、診察台に載せられた猫が、甘い声で啼いた。

「ずいぶん人に馴れているようですから、飼い猫だったのかもしれないですね。うん、外傷はないようです。

これからレントゲンや血液検査をしますから、しばらく待っていてください」

病猫狂詩曲

ラプソディ

あきふゆひこ
亜木冬彦

現代御伽草子 ⑤⑥

※県北の歴史や風物を題材としたフィクションです。

「薄情ね。化けて出るわよ！」

それから、いつものように口喧嘩

電話を切った。口では美和にかなわ

ない。母親に似たのさ。おしゃべりで、明るい笑顔しか思い浮かば

ない。台所に行くと、猫の前に置いて猫

マンマも煮干しも、そのまま残って

いか。

「すごい名前ですね」

トラ公ではまずいと思って、思い

ついた名前を適当に書いておいた。

「性別が雄になってますが、ゴンタ

ちゃんも雌ですよ」

顔が赤くなるのがわかった。丸々

太って体格が良かったので、雄だと

思い込んでいた。そういえば、買い

物カゴに入れて連れて来るときに、



猫にそんなことをするのかと驚いたが、頷いて同意するしかなかった。

「それでどうだったの？」
珍しく美和の方から電話をかけたきた。

「慢性腎不全、もう治療して治る段階じゃ、ないそうだ」

「あちゃー、最悪ね。高齢の猫に多いらしいけど、ケンシローもそうだったのよね。野良だとやっぱり厳しいか。点滴はしてもらった？」

さすがに詳しい。点滴で汚れた血を薄めて、腎臓の負担を和らげてやるしか方法はないらしい。

「できれば、週に二回、点滴に来てくれと言われたよ」

「そう、お金がかかるわね。検査費用も高かったでしょ？」

金額を言うことができなかった。専門農家だったので収入は国民年金だけ。六万足らずの月額半分近くが、一回の動物病院の受診で消えてしまった。人間と違って、保険が利かないのだ。手持ち金が足りなかった。銀行で降ろして再訪した。次の年金の支給日まで、晩酌の酒を買う余裕もなくなってしまった。「やっぱり、畑の肥やしになってもらうしかないか」

「えっ」
「だって、病院に通うお金なんて、お父さんには払えないでしょ？」

事実だから、余計にカチンときた。一人暮らしになってからは、畑仕事もろくにしないで、日が暮れる前から酒を飲んでいる。

「そんな薄情なことができるか！」
怒鳴ったあとで、

（だって、相川アヤちゃんなんだぞ）
診察券の名前を、心の中で呟いた。
「うんうん、さすがはお父さん、男

気ある〜」

美和にうまく乗せられたことに気づいた。

「今度、賢太を連れて猫を見に行くよ。あの子、動物が大好きだから」

孫の賢太の顔を思い浮かべた。しばらく会っていない。今年の春から小学校に上がっている。入学祝を何にしようか迷っているうちに、時期を失して結局、何も贈っていない。「がんばってね」

電話が切れた。古新聞を放り込んでいる段ボール箱を漁って、お目当てのチラシを探し出した。黒電話の受話器を取り上げてダイヤルした。

「あの……、新聞配達の募集はまだやっているでしょうか？ ああ、よかったです。はい、わたくし、今年の七月で七十五歳になります。いえ、運転免許はもう返納しておるんですが、自転車がありますので。ええ、まだまだ足腰には自信があります。子供の頃は、走って新聞配達をしておりました。あっ、そうですか。それではこれから伺いますので、よろしく願います。あっ、失礼しました、相川です、相川源蔵でございます……」
下げたことのない頭を、ペコペコと何度も下げている――。

まつの古本屋さん どろ書房

古書探索の旅に、お気軽にお立ち寄りください。

- ・無料本、百円本、50円本などのコーナー。無料の漫画ルームもあります。
 - ・地元のポストカード、新鮮野菜の店頭無人販売もやっています。
- ※九日市の開催日は定休日でも開店します。

- 庄原市中本町 2-1-10
- 定休日：毎週月・火曜日（2月は店内整理で全休）
- TEL: 090(9913)3052
- 営業時間 9:30 ~ 18:30

※広島銀行庄原支店の手前（三次側から）※交差点角のまちなか駐車場が使用できます。

< 広告料 1/4 ページ 1 回 2,000 円 半年間 9,000 円 1 年間 15,000 円 >

どろくろ俳壇&歌壇

※参加を歓迎します。

花の山朝から天声人語かな

近藤昌平

マスクして解るわからぬ人の顔

富久光

球場にあがる打球や若葉風

片岡正人

さくら花水面にひらひらとういている

西谷白及

春暑し手押し車の散歩かな

隆愚

シャガールの空に初蝶溶けにけり

大槇三代子

聖五月病猫細くなりやみねこにけり

赤川冬人

櫻散りてつばめ玄鳥来たりてはつ夏の

松岡初枝

風にむかひて胸開きたし

投稿&寄稿

候のことば

「母の日」

隆愚

母の日は五月の第二日曜日。そもそもはアメリカから渡ってきた記念日です。母を亡くした一人の女性が、

追悼の会で列席者に白いカーネーションを配ったそう。それを知った大統領が、国の記念日に決めました。母の日には、お母さんが健在な人は赤いカーネーションを贈り、お母さんが亡くなった人はお墓に白いカーネーションを捧げますが、今ではお母さんの好きな色のカーネーションを贈ることもあるそうです。



「病猫実話版」 赤川仁洋

「赤川ドラマちゃん」、診察券の名前である。飼猫のドラマが、餌を食べなくなつた。カリカリの餌はそのままで、ゼリー状のやわらかい餌を少し舐めるだけ。

その前に、煮干しを食べると吐くのが三日ばかり続いた。春先で毛が生え変わる時期なので、毛繕いで毛玉がおなかに溜まっているのだろうとブラッシングをしてみると、吐くのは止んだが食はどんどん細くなる。これは大変だと、ようやく動物

病院に連れて行った。

まともなペットを飼うのは初めてで、動物病院の受診も初体験。ドラマも怖がって啼いているが、飼い主の方も不安である。問診票には年齢の欄もあったが、野良猫だったのでわからない。一緒に暮らすようになって、四年以上が経過している。

検査結果は慢性の腎臓病、半ば予想していたことであり、いちばん恐れていた結果である。人間であれば腎移植か人工透析。それはできないので、せいぜい点滴で症状を和らげるしかないらしい。

シグナルはあったのだ。水を飲む量が増えて、尿量も増加した。食欲があつてふとつていたので、元気が良い証拠だと勘違いした。もっと早く気づいていれば、恢復する可能性は残されていた。野良のときのダメーシがあつたのだろうか、好物の煮干しを与えすぎたかと後悔もする。先日は貧血が悪化して、また検査。外注なので、結果は出ていない。両親の自宅介護を経験して、少しは逞しくなつたかと自惚れていたが、アタフタと動揺している弱い自分がある。がんばれと、ドラマの瘦せた体を撫でながら、自分にも言い聞かせている。

どらくろあ 掲示板

地域のイベント情報やメンバー募集など
情報掲示板です。

● **一 硬式テニス参加者募集 一**
MTEC (Miyoshi Tennis Enjoy Club)
場所：三次運動公園の屋内&屋外コート
・火曜日 (9:30 ~ 12:00)
・水曜日 (9:30 ~ 12:00)
・土曜日 (10:00 ~ 12:00)
連絡先：中川 (☎070-8991-1682)



庄原九日市福引まつり



- ◆5月9日(日)開催の庄原九日市(第240回)にて、福引を行います。景品は九日市出店者からの提供で、バラエティに富んでいます。特賞は5000円の商品券が2つ。
- ◆九日市でお買い上げのお客様に、抽選券をお渡しします。
- ◆抽選会場は「まちなか広場」(裏面の地図の⑮)に設置したテント。
- ◆ケサップさんのネパールダンスがあります。

※コロナ禍につきマスク着用や対人間隔の配慮等のご協力をお願いします。

《情報&原稿を募集します!!》

- 仲間募集
 - 教室&講座案内
 - イベント情報
 - あなたの大切な本の紹介
 - ボランティア・ライター(現地記者)募集!
- ※応募先はどら書房・赤川まで。
掲載は無料です。

どらくろあ ホームページ

バックナンバーも掲載して
いるので、ダウンロードして
お楽しみいただけます。



<http://shobara.wix.com/dorakuroa>

徳岡政暁 陶芸作品コーナー

陶芸家、画家(徳岡佛性坊)として多彩な活動をしてきた故・徳岡政暁氏の陶芸作品の展示販売を、どら書房の一角でしています。
茶碗や花器、陶板や料理皿、多様な作品を展示しています。あなたのお気に入りの逸品が見つかるかもしれません。
※天井が低いので頭上注意!

どら書房無人野菜販売コーナー

新鮮で安全な野菜を店頭で販売(値札のないものは百円均一)。
毎週水曜日の朝に入荷予定。

●黒ニンニク好評販売中!●
(青森産ニンニクホワイト六片使用)

甘みと適度な酸味、ニンニク臭さはありません。
ポリフェノールを含み、抗酸化作用、滋養強壮などの効果が期待できます。

(80g入り500円)

※売り切れのときはご容赦ください。

発行：どら書房
〒727-0012
庄原市中本町 2-1-10
☎090(9913)3052(赤川)
e-mail: touzin@nifty.com

誌面デザイン: ROUTE183
協賛: 九日市愛好会

編集後記

◇今月号より、「年間購読料」の項目を削除しました。五年を過ぎて少し肩の荷を軽くしたいという想いで、発行&郵送(今後は無料)は今まで通り。よろしくお願ひします。

◇先月号の「つれづれ歌談」、大伴家持の歌「うらうらに照れる春日に雲雀あがり情悲しも独りし思へば」が、「独り思へば」になっていました。初期印刷のものは訂正されていません。申し訳ありませんでした。
◇木の芽時を過ぎたせいか、四月は体調不良や病気の方の話をよく聞きました。コロナ禍も第四波でもう、うんざり。スカッとした本でも読んで、しばし気分だけでも五月晴れといきたいものです。

第 240 回

しょうばらくんいち 「庄原九日市」

令和 3 年 5 月 9 日 (日) 9:00~13:00

庄原九日市とは？

天正年間(440年前)に物々交換で始まった市(いち)

昭和年代の戦争で途絶えていた市を、市街地活性化ボランティア活動として空き店舗などを活用し2001年に復活

TOPICS

★市民ギャラリー「アート多愛夢」

5月8日~10日 10時~15時

桐原つゆ子・坂田知子 二人展

★どら書房 →休憩所あります！！

月曜日と火曜日はお休みです。

但し、九日市の日には営業します。

★九日市でくじ引き抽選会と

ケサップさんのネパールダンス

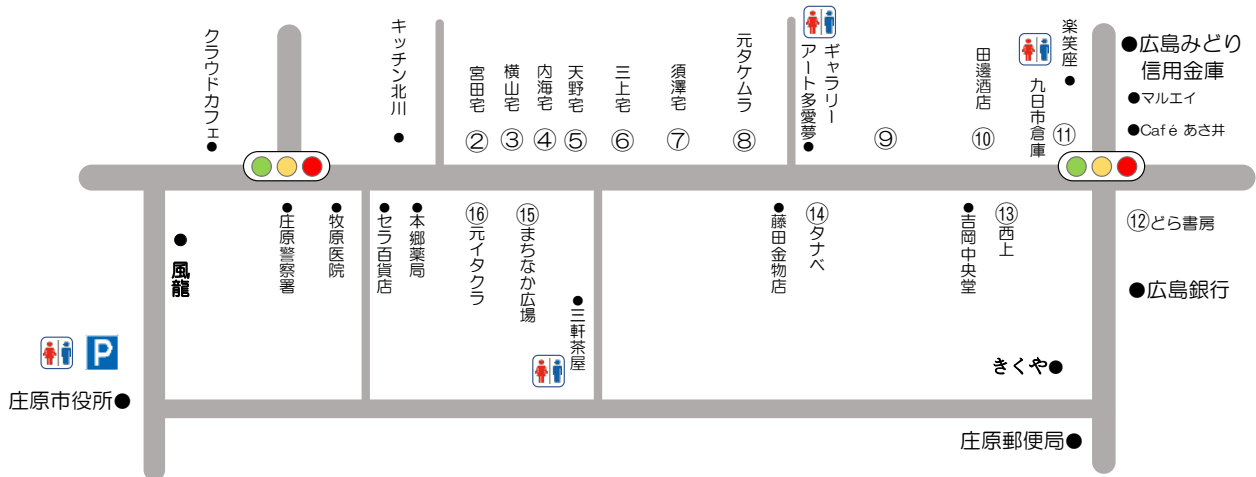
★楽笑座で「まかない食堂」中 止

★楽笑座で「うた声喫茶」中 止

★きくや →総菜とお寿司の店頭サービス！！

★風龍 →九日市スペシャルで餃子200円！

出店配置図



②屋台屋

③文屋

④お福
郷屋

⑤工房アム
ぬくもり
ちくちくはうす玉手箱
832gの奇跡
かくや姫

⑥美・sfida・三次サロン
和み屋
クラフトショップ
Room of keiko

⑦農楽会

⑧とらち
二八そば加工所
アーミッシュ
さだっさ
健康企画
ふくふく牧場
17KITCHEN

⑩克國水産

⑫どら書房

⑬久代水産
くんえん工房 香豚
吉備路花田FF

⑭まなべ商事

⑮どんぐりーず
宮川屋
佐藤園芸
田崎屋

⑯片衛商店

出店申込みは、【毎月20日締切】コンパネ1枚スペース1,000円～ 九日市愛好会事務局
〒727-0013 庄原市西本町2-1-10 楽笑座内 TEL/FAX 0824-72-8285

ホームページ
<http://www.kunchi-ichi.jp/>

